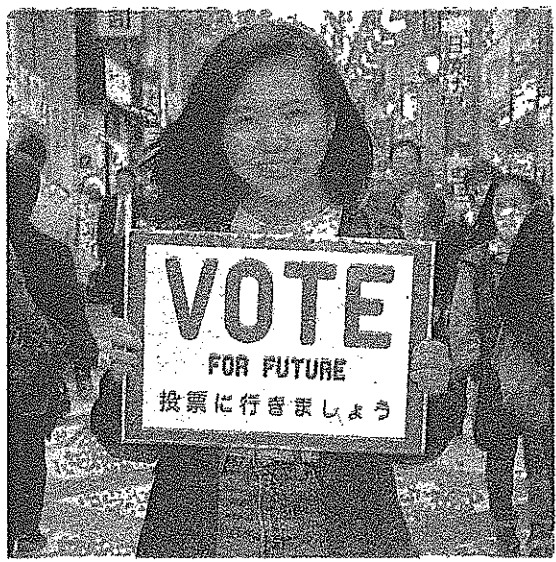


戦争法反対 呼びかけて700人

地元デモ 私の答え

「自分の生まれ育った場所で変化をつくる」。戦争法に反対する国会前デモの経験を地元を持ち帰って行動する若者がいます。今春、都内の私立高校を卒業したばかりのアマネさん(18)は、東京都中野区でローカルデモを呼び掛け、予想を超える700人の参加者で地元の思いを体現しました。アマネさんは「私の答えはこれ。この景色で安倍政権を倒したい」と話します。

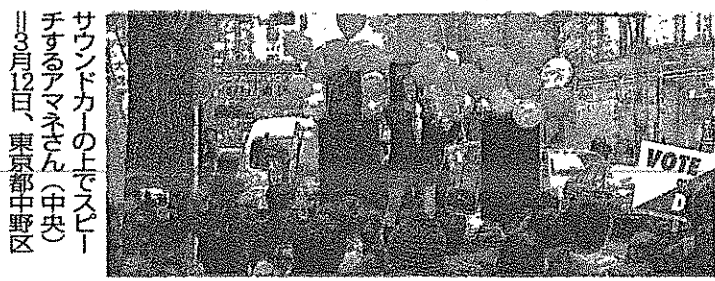
東京・中野 アマネさん(18)



「高校生も声上げる」

(野村 説)

3月12日、デモの集合場所になった公園には、時間近く前からさまざまなメッセージボードを手にした市民が集まりました。飛び入りも含めて参加者は沿道につらなり、



サウンドカーの上でスピーチするアマネさん(中央)
3月12日、東京都中野区

「民主主義ってなんだ」「野党は共闘」とサウンドカーに立つアマネさんのコールに応じます。敷居を低くして

アマネさんはローカルデモの魅力を、「お年寄りや子育てママなど、永田町までは行けない市民も近所なら参加しやすい。飛び入りの敷居もずっと低くなるんじゃないかな」と話します。

デモのあと、自分よりも若い子から、「私も地元でデモを企画したい」との相談があり、「これが次の世代の何かのきっかけになったらいい」と喜びをにじませます。

一方、学校での風当たりは強い。教師がツイッターをチェックして「制服でデモに行くな」「デモより勉強しろ」と言われたり、通学バッグにぶら下げていた憲法9条のタグを「学校に政治を持ちこまないで」と教師にしまわれたりもしました。

「戦争法がこれだけ問題になっている今、私の未来は国の将来から大きく影響を受ける。学校と生活が別々に分けられてしまうことに違和感をもった」と振り返ります。

アマネさんは、選挙権の有無にかかわらず高校生も一人前の主権者だと考えています。「なんで高校生まで立ち上がんなきゃいけない状況になっちゃったのか、おとなや政治家はよく考えてほしい」

次の企画も準備中

18歳選挙権とデモデビューを同じ年に迎えられることに、「なんて感激的な人生の1ペーシ」と、笑みをこぼすアマネさん。「これからは高校生が声を上げることが当たり前になればいい。若者の低投票率を私たちの力で変えたい」と、目下、次の企画も準備中という

「それは言っても、投票年齢の引き下げにともない誰に投票したらいいのかわからない」「政治に興味がない」と率直に話すティーンズも多い。「高校生だって学費やブラックバイト、進路で政治とは密接にかかわっている。貧しいなら経済的徴兵も身近だよ。自分の問題に引き寄せて考えることができれば」と語ります。

アマネさんは、夏の選挙までに野党がどこまで手を組めるのかに期待しています。「日本共産党は、戦争法強行の日にどこよりも早くこの展望を示してくれた。むしろ、ちやすこいと思ったし、私たちの声が届いたと感服した瞬間でした。これから同じ目的のために貸せる力を貸し合ってたりたい。今の動きは起るべくして起っている。決して偶然じゃないから」